



JASDAQ

平成 27 年 4 月 6 日

各位

会 社 名 株式会社市進ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 下屋 俊裕
(JASDAQ コード番号 4645)
問 合 せ 先 取締役統括本部本部長 竹内 厚
(TEL 047-335-2888)

平成 27 年 2 月期通期連結業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 26 年 4 月 11 日に公表しました平成 27 年 2 月期通期連結業績予想の修正および特別損失の計上につきましてお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	17,349	103	86	△383	△42 円 4 銭
今回修正予想 (B)	16,771	315	294	△1,054	△105 円 67 銭
増減額 (B - A)	△578	212	208	△652	
増減率 (%)	△3.3	205.8	236.3	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 2 月期)	17,858	101	84	△737	△81 円 68 銭

・修正の理由

当社グループの主要営業部門であります市進学院((株)市進)におきましては、特に集団授業について夏期講習以降集客を伸ばし、下半期はほぼ売上高予算を上回る水準で推移いたしました。これは、ここ数年来の都県本部制および小中高体制を堅持し、千葉県・東京都を重点地域としたドミナント展開を図り、教務力の専門性強化と学校成績の向上を目的とした学習補完体制の充実に力を注いだ成果と考えられます。

その一方で、個別授業部門や映像授業部門での集客においては当初見込みには届かず、連結売上高合計では予測を下回る結果となりました。個別授業部門強化の対策としては、平成 26 年度後半より、当社グループ全体で個別指導研究プロジェクトを立ち上げるなど抜本的な対策をスタートさせておりますが、映像授業部門も含めて、個別指導の品質や映像授業の商品開発力向上を目的として、平成 27 年度に向けてさらに対策を強化してまいります。経費面におきましては、利益体質への改善を図るべく、業務フローの見直しなど業務効率化による経費節減を積極的にすすめ、当初見込以上の経費節減効果が得られました。当連結会計年度においては、当社グループの印刷・物流・施設管理業務を行っていた㈱友進を当社㈱市進ホールディングスに吸収合併することで、主に間接部門の人件費等の合理化・効率化を図りました。また施設費の効率化ばかりでなく、教材作成印刷費等についても外部コンサルタント会社を活用するなど、当社グループ全体として利益構造の改革に取り組んでおります。

これらの結果、当連結会計年度における売上高は 16,771 百万円 (前年同期比 93.9%)、営業利益は 315 百万円 (前年同期比 309.5%)、経常利益は 294 百万円 (前年同期比 349.6%) となりました。希望退職者の募集に伴い発生する特別退職金の支給にかかる費用として 337 百万円、「市進学院」14 拠点をはじめ不採算拠点の撤退や、より効率的な拠点運営のための賃借フロア返還に伴う固定資産除却損・原状回復工事

費 359 百万円を特別損失として計上しております。さらに、繰延税金資産の回収可能性については、慎重かつ保守的に検討した結果、繰延税金資産を 458 百万円取り崩し、当期純損失は 1,054 百万円（前期純損失 737 百万円）となりました。

2. 平成 27 年 2 月期通期連結業績における特別損失の計上について

上記修正の理由に記載のとおり、固定資産除却損・原状回復工事費として 359 百万円を特別損失に計上いたします。

（業績予想に関する注意事項）

上記の予想は本資料の発生日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

以上